

推薦入試 I 期小論文テーマ

農学部 農学科

平成 25 年度

農業生産を低下させる要因はさまざまであるが、生物的な要因によって収穫量が減少する事例を一つ挙げて説明したのち、それを防ぐ方法について述べなさい。

平成 24 年度

食料自給率向上と環境保全との観点から、将来の日本農業のあり方について論じなさい。さらに、その将来の日本農業にあなたはどのように関わることができるか述べなさい。

平成 23 年度

日本の食料自給率（供給熱量ベース）は 1965 年の 73% から大きく低下し、近年は 40% 前後で推移しています。この低下の原因を、食生活の変化との関連で説明し、自給率向上について、考えられる方策を述べなさい。

平成 22 年度

農耕地の生態系において、生物生産性は作物以外の様々な生物の影響を受けています。そこでまず、生物の影響としてどのようなものがあるか、農業上有益なものと有害なもの両方について具体例を挙げて説明しなさい。次に、それらの生物と人間との共存を図るにはどのような方策が考えられるか論じなさい。

平成 21 年度

近年、作物多様性とその保全に対する関心が高まりつつある。一方で、農業にとって生産性の向上が重要であることはいうまでもない。そこで、以下のキーワードをすべて用いて、耕地（水田や畑）における「生産性の向上」と「生物多様性」の関連を説明しなさい。さらに、「農業生産性の向上」と「生物多様性の保全」の両方に配慮した農業のあり方について、あなたの考えを述べなさい

キーワード：化学農薬、化学肥料、耕地生態系、天敵